

山梨県立大学の就活支援 地元企業のインターン先開拓 就勝就喝!

2023/6/1 2:00 | 日本経済新聞 電子版

山梨県立大学は長期インターンシップ（就業体験）を1年生から推奨している。2023年度は県中小企業家同友会などの協力を得て地元企業の受け入れ先を増やし、体験機会を拡充した。キャリアサポートセンター長を務める吉田均国際政策学部教授に聞いた。



山梨県立大学のキャリアサポートセンター長・吉田均氏

インターンはルールの見直しで、企業が採用選考に利用できるようになった。3年生のインターンは就職試験そのものとなった。社会で働く意義などを考える従来型の就業体験は1、2年生へと早期化している。

学生には1年生からできるだけ多く就業体験をしてもらいたい。仕事の現場で自らの適性を試したり、職場の雰囲気を感じたりするのはキャリアを考えるうえで大切だ。本学は地域社会の発展を理念にしており、県内中小企業を対象にした長期インターンを企画した。

23年度は建設や製造業、福祉など18社・団体が参加する。学生は数カ月 にわたって週1～2回の就業体験を続け、仕事のスキルなどを学ぶ。4月中旬に開いた説明会には1～3年生の47人が参加して各社と面談した。

この長期インターンは22年度に学生の企画によって始まった。初年度は10社が参加。今回は地元経済団体の協力も得て、受け入れ先が増えた。県内中小企業にとってもインターンを始めるきっかけになっている。

このほか山梨大が主体となり県内8大学などが連携する「Miraiプロジェクト」という就業体験もある。県内企業・団体が設定する様々なプロジェクトに学生が一緒になって挑む長期インターンで16年度に始まった。23年度は過去最多の37社・団体が参加する。



山梨県立大学の国際政策学部と人間福祉学部が入る飯田キャンパス（甲府市）

キャリアサポートセンターでは個別の就職相談にも力を入れている。本学は国際政策学部、人間福祉学部、看護学部があり、学生数は1学年約250人。うち看護師など特定業種を除くと約100人がセンターの就職支援対象になる。

一方、センターにはコンサルタントや県庁人事課からの出向者など11人の就職相談員がいる。個別相談は1年生から利用でき、時間も回数も制限はない。22年度は約1000件の利用があった。学生たちにはライフデザインという観点で働くことや就職について考えてもらうように努めている。

(聞き手は甲府支局長 松永高幸)

許諾番号30093849 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.